

「しつれいしま～す。」

2ねんせいの きょうしの とびらを あけると だれも いません。

「あれ？ いないねえ。」

「ほかの へやで じゅぎょうを してるのかな……？」

「じゃあ りかしつに いてみようか。」



「しつれいしま～す。」

りかしつでは じっけんの まっさいちゅう。

「わあ、すごーい！ おもしろーい！」

でも、さがしている 2ねんせいでは なさそうです。

まみすけは ゆうきを だして せんせいに ききました。

「あのう……。に、2ねんせいは……。ど、どこにいるか……。しりませんか？」

「さあ……。きょうしつに いないなら、かていかしつじゃないかな？」



「ストップ スト〜ップ!!」

せんせいの こえが して、  
ぺろを つかむ てが スッと はなれました。

「じゅぎょうだからって そんなに こわがらせちゃ だめだろう!」  
すると、2ねんせいが ぞろぞろと でてきます。

「えへへ。いま、こわがらせの じゅぎょうを してたんだー。」

「どう? こわかった?」

「こ、こわかった〜〜!」

3にんは もう へ口へ口。

でも、しょうたいが わかって ホッと ひとあんしんです。

